

伝統の名匠

伝統的な文化財を 守り伝える

文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な技術又は技能で保存の措置を講ずる必要があるものを選定保存技術として選定を行っているが、その保存・伝承活動や後継者養成などにおいて多くの問題を抱え、加えて、伝統的な修理技法に用いられる材料や道具を生産するための原材料が不足していることも大きな課題となっている。

このため、国内における文化財の修理や材料、道具などに関する現状を把握・共有するとともに、広く一般の方々に広報・普及し、後継者の養成に資することを目的とする。

9月23日(金・祝)

- 10:10~10:15 開会挨拶
- 10:15~10:55 講演「文化財保存技術について」 亀井 伸雄 文化庁文化財鑑査官
- 10:55~11:25 講演「福岡県における文化財の保護について」 伊崎 俊秋 福岡県教育庁総務部文化財保護課参事補佐・文化財保護係長
- 11:25~13:25 実演展示およびミュージアムコンサート
- 13:25~13:40 事例報告 伊野波 盛應 琉球藍製造技術保存会会員・製造技術研修者
- 13:40~13:55 事例報告 岩瀬 道博 歌舞伎大道具(背景画)製作技術保存会事務局長
- 13:55~14:10 事例報告 島袋 光史 組踊道具製作
- 14:10~14:25 事例報告 長瀬 正美 (財)日本民族工芸技術保存協会特別会員
- 14:25~14:40 事例報告 黒滝 哲哉 (財)日本美術刀剣保存協会たたら課職員・刀剣博物館学芸員
- 15:00~17:00 九州国立博物館特別企画「九州伝統工芸のいま」
挨拶 三輪 嘉六 九州国立博物館館長
パネラー 中島 宏 陶芸作家・(社)日本工芸会西部支部幹事長
酒井田 柿右衛門 陶芸作家・重要無形文化財保持者
小川 規三郎 染織作家・重要無形文化財保持者
鈴田 滋人 染織作家
中村 信喬 人形作家
司会 和多田 進 日本聞き書き学会理事

9月24日(土)

- 10:15~10:45 講演「太宰府市における文化財の保護について」 城戸 康利 太宰府市教育委員会文化財課主任主査
- 10:45~11:15 講演「伝統を支える技術 - 久留米餅と伝統保存技術」 森山 虎雄 重要無形文化財久留米餅技術保持者会会長
- 11:15~11:30 事例報告 西川 杏太郎 (財)美術院理事長
- 11:30~11:45 事例報告 長谷川 淳一 杼(ひ)製作
- 11:45~13:45 実演展示およびミュージアムコンサート
- 13:45~14:00 事例報告 高木 信之 浮世絵木版画彫摺技術保存協会理事
- 14:00~14:15 事例報告 下地 正子 宮古苧麻績み(ブーンミ)保存会会長
- 14:15~14:55 講演「選定保存技術の活用と博物館の役割」 三輪 嘉六 九州国立博物館館長

選定保存技術保存団体

阿波藍製造技術保存会／浮世絵木版画彫摺技術保存協会／歌舞伎衣裳製作修理技術保存会／歌舞伎大道具(背景画)製作技術保存会／歌舞伎小道具製作技術保存会／木之本町邦楽器原糸製造保存会／国宝修理装演師連盟／(財)日光社寺文化財保存会／(財)日本美術刀剣保存協会／(財)日本民族工芸技術保存協会／(財)美術院／(財)文化財建造物保存技術協会／(社)全国社寺等屋根工事技術保存会／昭和村からむし生産技術保存協会／全国手漉和紙用具製作技術保存会／全国文化財壁技術保存会／日本うるし掻き技術保存会／日本文化財漆協会／文化財庭園保存技術者協議会／祭屋台等製作修理技術者会／宮古苧麻績み(ブーンミ)保存会／琉球藍製造技術保存会



日時
平成17年 9月23日[金・祝] 10:00~17:00

24日[土] 10:00~15:30

会場
九州国立博物館
太宰府市石坂4-7-2 西鉄太宰府駅より徒歩10分

主催
文化庁

共催
九州国立博物館／福岡県教育委員会／太宰府市教育委員会

協力
全国文化財保存技術連合会／(社)日本工芸会西部支部



●文化財保存技術について

亀井 伸雄（かめい・のぶお）

文化庁文化財鑑査官

1948年神奈川県生まれ。東京大学大学院修士課程修了。73年文化庁建造物課に入庁。その後、75年奈良文化財研究所、84年奈良市教育委員会文化財課に勤務。99年文化庁建造物課長、03年都城工業高等専門学校長を務め、05年からは文化庁文化財鑑査官に就任し、現在に至る。

私たちにとってかけがえのない貴重な財産である文化財を保存し、次世代に確実に継承するためには、保存技術とともに文化財を支える用具や原材料の確保が不可欠です。文化庁では、1975年に文化財保護法を一部改正し、文化財の保存に欠くことのできない技術又は技能で保存の措置を講ずる必要があるものを「選定保存技術」に選定し、その保持者・保存団体を認定する制度を設け、これらの技の保護と次世代への継承に努めてきました。

しかし、近年、文化財を支える用具や原材料の入手難、それらの生産等従事者の人材不足が急速に深刻化するなど、「選定保存技術」を取り巻く状況は大きく変化しています。このままでは、文化財の保護にも重大な影響を及ぼしかねないことから、一刻も早い新たな方策の策定が期待されているのです。

●福岡県における文化財の保護について

伊崎 俊秋（いさき・としあき）

福岡県教育庁総務部文化財保護課 参事補佐兼文化財保護係長

1955年鹿児島県生まれ。九州大学文学部史学科卒。79年から福岡県教育庁文化課(現：文化財保護課)にて県内各地の埋蔵文化財発掘調査に携わる。九州横断自動車道や椎田バイパス関係の調査のほか、90年以降は教育事務所や甘木歴史資料館でも文化財の保護・普及・活用等に従事。05年より現職。

福岡県は、現在の人口は約506万人。2政令市と24市53町6村の85市町村で構成され、全市町村に「文化財保護条例」が制定されるとともに、76市町村に文化財担当専門職員が配置されています。県内の指定文化財は、国指定が367件（国宝・登録文化財等含む）、県指定文化財は643件、市町村指定は1,138件、合計で2,148件があります（2005年8月末現在）。

福岡県では高度経済成長期の1969（昭和44）年に文化課が設置され、多くの埋蔵文化財に関わる開発事業に対応しつつ、文化財全般の保護行政を推進してきました。現在は福岡県文化財保護審議会から建議された「文化財保存活用基本指針」をもとに施策を展開しているところです。

●事例報告

伊野波 盛應（いのは・もりお）

琉球藍製造技術保存会会員・製造技術研修者

1955年4月沖縄県国頭郡本部町字伊豆味生まれ。79年3月日本大学生産工学部建築学科卒業。以後、現在まで建築設計業務に従事。04年5月建築設計業務の傍ら琉球藍製造技術研修に従事。

岩瀬 道博（いわせ・みちひろ）

歌舞伎大道具(背景画)製作技術保存会 事務局長

1947年生まれ。72年東京造形大学デザイン科卒。同年帝京大学医学部写真室勤務。76年歌舞伎座舞台背景部に勤務。02年歌舞伎大道具(背景画)製作技術保存会運営委員に選定される。後継者が不足しており、若手育成のため入社10年以下の人達を対象に実技の場を設定、勉強会を行う。

島袋 光史（しまぶくろ・みつふみ）

国指定重要無形文化財保持者・国選定保存技術保持者・沖縄県芸能関連協議会会長・伝統組踊保存会相談役・光史流太鼓家元

1920年11月26日生まれ。47年沖縄諮詢会直営の松劇団(団長・島袋光裕)に入団、島袋光裕や板良敷朝賢に師事し、正式に組踊音楽太鼓を学ぶ。53年松劇団解散後、那覇劇場の事務・大道具・舞台装置関係の職等に従事。68年島袋光史太鼓研究所を設立、後継者を育てる。同年野村流古典音楽保存会より太鼓師範免許授与。沖縄県立芸術大学非常勤講師、伝統組踊保存会会長、国立劇場おきなわ「伝統芸能伝承者研修」講師、沖縄県芸能関連協議会会長などを歴任。

97年文部大臣より地域伝統文化功労賞、98年春の叙勲勲五等雙光旭日章受賞。その他受賞歴多数。

長瀬 正美（ながせ・まさみ）

(財)日本民族工芸技術保存協会特別会員

1952年山形県生まれ。77年より農業に従事。この頃より、佐藤清蔵氏、片桐勘東氏に師事し紅花の栽培と紅もちの製造について学び現在に至る。99年より地元の小学校で紅もちの作り方について指導にあたっている。

黒滝 哲也（くろたき・てつや）

(財)日本美術刀剣保存協会たたら課・刀剣博物館学芸員

1962年神奈川県生まれ。92年日本大学大学院文学研究科日本史専攻博士後期課程単位取得。高校講師、国立国会図書館勤務などを経て96年より現職。03年から文化庁主催美術刀剣刀匠技術保存研修会講師。

●太宰府市における文化財の保護について

城戸 康利（きど・やすとし）

太宰府市教育委員会文化財課主任主査

1960年福岡県生まれ。84年立命館大学文学部史学科卒業。このころから発掘調査現場で作業員となる。89年から太宰府市教育委員会勤務。

太宰府市はその名前のとおり古代の対外交渉の窓口であり、西海道の拠点である「大宰府」が置かれたことに由来します。現在政庁跡である大宰府跡をはじめ大宰府関連史跡は市内で452haが国指定史跡として保存されています。それ以外にも約2.2km四方の街区割りを持った都市が存在していました。また、近世以降は天満宮安楽寺への参詣が広がったため、太宰府は史跡と天満宮のまちと思われるようになりました。文化財の保護も寺社の宝物と史跡や埋蔵文化財に力が入れられてきました。これからは地域の人々の間で変化しながら連続と伝えられてきた文化財をこれからも生きた文化財として保護する方途を模索します。

●伝統を支える技術 ― 久留米絣と伝統保存技術

森山 虎雄（もりやま・とらお）

二代森山虎雄・久留米絣技術保持者会会長

1933年福岡県生まれ。50年祖父富吉、父虎雄に師事し家業を継ぐ。60年久留米絣技術保持者会に入会。76年重要無形文化財久留米絣技術保持者（手括）。89年重要無形文化財久留米絣技術保持者会会長就任。91年藍染技術保持者、03年5月勲四等瑞寶章を授与。

綿織物の久留米絣は、始祖井上传女をはじめ多くの人々の数知れぬ創意と努力が積み重ねられ、庶民の中で育まれ親から子へ、さらに孫へと手ほどきされ、殊に意匠の如きは現在でも専門のデザイナーにも勝るものが受け継がれ、まさに庶民の芸術であるといえます。もともとこの地方には近くの有明海沿岸に棉が生産されたということです。また、九州随一の筑後川に抱かれた豊沃な土壌に藍と紅花が多く栽培されていたようです。遠い江戸のはじめから筑後のちまたには紺の香りがただよっていたといわれています。久留米絣はこうした環境に生まれ、風土に培われた長い歴史をもった伝統の芸術でもあります。麻の越後上布、絹の結城袖に次いで1957年に綿の久留米絣が重要無形文化財に指定されましたが、この頃を境として繊維革命と合理化の波が押し寄せ、久留米絣も機械化が進み手織の道具を作る人がいなくなった。

●事例報告

西川 杏太郎（にしかわ・きょうたろう）

(財)美術院 理事長

1929年東京に生まれる。慶応義塾大学文学部(美学美術史)卒。文化庁在勤の間、彫刻の国宝補助修理を担当。その後、文化庁文化財鑑査官、東京国立博物館次長、奈良国立博物館館長、東京国立文化財研究所所長、東京芸術大学大学院(文化財保存学)客員教授などを歴任。現在、神奈川県立歴史博物館館長。

長谷川 淳一（はせがわ・じゅんいち）

国選定保存技術保持者

1933年京都府生まれ。立命館高等学校卒業後本格的に父に師事。杼（ひ）製作に従事。現在に至る。杼は機(はた)に掛る経糸(たていと)の間に緯糸(ぬきいと)を通す道具で機織(はたおり)には欠かすことが出来ない。材料の赤堅は10年以上乾燥した木を用います。織物の種類により多様な形式があります。

1999年6月21日国選定保存技術指定。2003年4月29日勲五等瑞宝章授与。

下地 正子（しもじ・まさこ）

宮古芋麻績み(ブーンミ)保存会会長

1935年12月14日沖縄竹富生まれ。57年宮古病院勤務。89年宮古婦人連合会副会長、91年平良市働く婦人の家館長、93年平良市婦人連合会会長などを歴任。01年平良市ブーンミ保存会、02年平良市友利下地町ブーンミ連絡会。03年より宮古芋麻績み(ブーンミ)保存会会長。

高木 信之（たかぎ・のぶゆき）

浮世絵木版画彫摺技術保存協会理事

1948年東京都生まれ。(株)高木蟹泡堂代表取締役。東京木版画工芸組合理事。

●選定保存技術の活用と博物館の役割

三輪 嘉六（みわ・かろく）

九州国立博物館長・文化財保存修復学会長

1938年生まれ。日本大学史学科卒業。奈良国立文化財研究所研究員、文化庁主任文化財調査官、東京国立文化財研究所修復技術部長、文化庁美術工芸課長、同文化財鑑査官、日本大学教授、九州国立博物館設立準備室長を経て、05年より現職。文化審議会文化財分科会専門委員をはじめ、文化財の保存・活用についての各種委員。専門は考古学、博物館学、文化財学。

日本の文化財の分野は幅広い。とくに近年では文化財の裾野の拡大が図られてきたと同時に、活用のあり方が問われている。選定保存技術はその代表的なもので、無形文化財の中の工芸技術を除けばこれまで博物館とのつながりは必ずしも顕著ではなかった。とくにこの分野は、どちらかといえば黒衣的な存在として表舞台に出ることなく作品の保存や作家の活動を支えてきた。しかしこうした世界が無ければ日本の文化財の多くは後世に継承されないし、維持されることもない。これからの博物館が単に展示のみならず多目的な活動の場として存在しようとする限り、また博物館が文化財保護機構の一役割を担っている意義も含めて、これらの活用の道を拓いていくことは博物館として不可欠な取り組みであろう。